

## 126 頭部領域における<sup>111</sup>In 標識白血球炎症シンチグラフィの評価

宇野公一、蓑島 聡、吉川京燦、今関恵子、有水 昇（千葉大放射科）、植松貞夫、佐藤和一（同放射科）、山浦 晶、魚住顕正（同脳外科）、北方勇輔（君津中央放射科）、寺内隆司、瀬戸一彦（榛原総合放射科）

昭和55年6月から昭和63年5月までの8年間に頭蓋内膿瘍や感染症を疑った45症例に本法を施行した。

<sup>111</sup>In-oxineまたは<sup>111</sup>In-tropoloneにより患者自家白血球を標識し、静注後24時間で撮像した。15症例において病巣を陽性像として描出し得た。本法は炎症巣の活動性を良く描出することができ、限局した感染症、X線CT上脳腫瘍と膿瘍の鑑別が困難な場合、および治療効果判定などにおいて有効であると思われた。また転移性脳腫瘍は淡い集積を示す場合があった。一方髄膜炎は陽性像として描出することはできなかった。

## 127 <sup>111</sup>In-111 トロポロン標識多形核好中球による炎症巣の描出の検討

吉越富久夫、上田正山、町田豊平、大石幸彦、田代和也、和田鉄郎、烏居伸一郎、後藤博一、長谷川倫男（慈恵医科大学泌尿器科）

<sup>111</sup>In-111 トロポロン標識多形核好中球 (PMN) を用い、病巣への集積能を検討した。対象：炎症巣および腫瘍巣を有する泌尿器科患者34例で、22例は炎症巣を12例は腫瘍巣の描出を目的とした。方法：患者末梢血を Mono-Poly Resolving Medium に重層遠沈し PMN を得た。これに 0.5~1mCi の <sup>111</sup>In-111 トロポロン を加えて標識し患者に再投与、24時間後に撮像した。結果：得られた PMN は  $0.6 \sim 5.0 \times 10^6$  個、viability は 95% 以上で、標識率は 86.7% であった。炎症巣の Sensitivity は 75%、Specificity は 95% を示し、腫瘍へは集積しなかった。結論：本法は比較的短時間に PMN が分離可能で炎症巣の診断に有用であった。

## 128 Ga-67 citrate のびまん性肺集積の検討

一薬剤性肺炎の予後を中心に一  
原田雅史、向所敏文、徳山教民、橘川 薫、田内美紀、須井 修（徳島大学 放射線科）

昭和59年4月より63年3月までに施行されたGaシンチのうち、肺野にびまん性集積を認めた56例について検討したので報告する。41例は炎症性疾患、12例は腫瘍性疾患、3例は原因不明であった。

炎症性疾患のうち、臨床的に薬剤性肺炎と考えられる症例が、21例と最も多かった。薬剤性肺炎の原因としては、悪性リンパ腫等に用いられる cyclophosphamide が最も多かったが、薬剤の使用量と発生頻度との間には、比例関係はなかった。Gaシンチにて集積を認めた症例のうち、呼吸器症状を呈した者は、7例 (33%) であり、残り14例 (67%) は、無症状であった。症状を有した者の内、死亡は2例であった。

## 129 骨・軟部腫瘍症例のシンチグラフィ

斎藤了一、大石卓爾、林 宏光、渡 潤、五十嵐義晃、奥山厚、山岸嘉彦、恵畑欣一（日本医科大学放射線科）

組織診断の確定した骨腫瘍83例と軟部腫瘍24例の Tc-99m 骨シンチグラムと Ga-67 腫瘍シンチグラムの有用性を検討した。軟部腫瘍悪性例は血流豊富なものが多く、Ga 集積陽性なものが多かったが、脂肪肉腫・線維肉腫は Ga 集積陰性を示すものがみられた。骨腫瘍例では、良性例でも Tc、Ga 共に集積陽性を示すものがみられたが、一般に集積の程度は悪性例より弱かった。さらに RI アンギオグラフィは、腫瘍部血流を容易に把握することができ有用であった。骨軟部腫瘍の初回検査として、RI アンギオグラフィを含む Tc 骨・Ga 腫瘍シンチ共に実施すべきと思われた。

## 130 横紋筋肉腫における Ga-67 スキャンの有用性

山口晴司、日野恵、伊藤秀臣、木村裕子、才木康彦、羽瀧洋子、大谷雅美、宇井一世、池窪勝治（神戸市立中央市民病院核医学科）

横紋筋肉腫は希な疾患であるが、極めて悪性で予後不良のため、迅速な診断と加療が必要である。我々は Ga-67 スキャンが有用であった3例を経験したので、その成績を報告する。[症例1] 55歳、男性、脳出血で発症した転移性脳腫瘍で、Ga-67 スキャンによる原発巣の検索で右肩甲骨部に異常集積を検出した。[症例2] 8歳、女児、右足の腫脹部に Ga-67 の強い集積があり、malignancy が疑われた。2例共 Ga-67 集積部の biopsy により横紋筋肉腫と診断された。[症例3] 5歳、女児、左大腿の腫脹を来し、Ga-67 スキャンでは大腿部および腹部傍大動脈〜鼠径部に強い RI 集積がみられ、大腿部の組織検査で本症と診断された。化学療法による腫瘍の縮小とともに Ga-67 集積の著明な低下を認めた。

## 131 <sup>99m</sup>Tc DTPA 腫瘍シンチグラフィの役割

井田正博、川上憲司、豊田圭子、森 豊、長瀬雅則（東京慈恵会医科大学放射線科）

我々の施設では <sup>99m</sup>Tc DTPA を神経線維腫症の腫瘍シンチグラフィとして用いているが、同症以外の軟部腫瘍でも集積陽性例を経験したので報告する。また他の画像診断法と比較して同シンチグラフィの役割を考える。対象は病理診断の確定した16病変である。そのうち①神経鞘腫、②悪性神経鞘腫、③悪性線維性組織球腫、④線維肉腫、⑤乳癌、⑥粘液腫で陽性集積を認めた。①~④では強集積を呈し <sup>67</sup>Ga と比較しても良好な画像が得られた。⑤では弱集積で周囲の乳腺組織の発育良好な例では有用でなかった。腫瘍の形状、内部性状、周囲組織と関連をみるには U S, C T の方が優れていたが、tissue characterization や術後の転移巣の検索には <sup>99m</sup>Tc DTPA シンチグラフィが有用と考える。